

令和4年度第1回みんなで支える森林づくり北信地域会議概要

長野県北信地域振興局林務課

1 開催日時

令和4年8月5日（金）13時30分～16時30分

2 開催場所

長野県北信合同庁舎講堂及びWeb会議の併用開催

3 出席者

【構成員】

上野由希菜構成員、大西宏志構成員、高村秀紀構成員（座長）
丸山真央構成員、宮崎正毅構成員、山岸洋子構成員（6名Web参加）

【林務部】

柳原森林政策課長

【北信地域振興局】

西澤林務課長、宮下企画幹兼林務係長、上野課長補佐兼治山林道係長
永瀬森林保護専門員

4 会議事項及び説明資料

- (1) 森林づくり県民税活用事業の令和3年度実績について
(説明資料1 令和3年度みんなで支える森林づくりレポートほか)
- (2) 森林づくり推進支援金の令和3年度実施状況について
(説明資料2 令和3年度森林づくり推進支援金総括書)
- (3) 森林づくり県民税令和4年度の事業内容および目標
(説明資料3 令和4年度 森林づくり県民税活用事業について)
- (4) 長野県森林づくり指針について
(説明資料4 長野県森林づくり指針について)
- (5) 意見交換（森林づくり県民税に関する提案、その他）

5 構成員の皆様から頂いたご意見等

- (1) 森林づくり県民税活用事業の令和3年度実績について及び
 - (2) 森林づくり推進支援金の令和3年度実施状況について
- 北信地域の事業の利用率が他地域に比べて低い。「当てはまらないからやらない」ではもったいないので、北信ならではの事業を作るなど工夫が必要では。子供の木工体験の実績がゼロだが、学校では前年度に計画を立てづらい実情がある。リアルタイムで実施したくても「来年度で」となってしまうと出来ない。例えば、一定の予算枠を取っ

ておき、この会議での承認により執行できるようにするなど事業内容・施策等を検討してほしい。行政のような事業計画は民間等ではなかなか難しい面もある。

(事務局コメント：事業執行における行政と民間の違いは確かにあるので調整は必要と思われる。制度的な内容については県としての検討が必要なため地域会議の意見として本庁に伝えたい。木工体験については、今年度は計画がある。)

- 今年度の計画は、今年度になって計画したものを何とか吸い上げてもらったもの。せっかく森林税があるので、他地区との予算の調整等を含め、もっと使いやすくしてほしい。

(事務局コメント：当年度での対応等、より使いやすい事業とできるよう本庁にも伝えたい。)

- 「森林税の事業」というと役場では林務課しか見ていない。教育委員会や建設課は知らない。事業の照会等は、役場の中で幅広くできるようになると良い。さらに、学校にも照会したり、一般の人にもネットでの一般公募で知らせる等、うまく伝わる仕組みを考えていただきたい。

- 貴重なご意見なので、是非、県に上げていただき、ご検討もお願いしたい。一般公募というのも、そこから新しいアイデアが出そうで面白いと思う。制度を整えるのは大変かと思うが是非ご検討いただきたい。(座長)

(事務局コメント：第3期森林税では、林務以外の事業も進めてきたが、まだまだ余地があるということで本庁に伝えたい。)

- NPO 団体（森林整備・自然環境保全・環境教育等）にも情報がなかなか入ってこない。例えば、県のNPO 推進室から一斉に通知する等の取り組みを検討してほしい。
- 県産材のベンチ等について、森の家等の施設でもあれば良いとも思うが、先程の意見の「欲しいときに使えない」とか金額面の制限もあり、すぐ欲しい時はネットで（外材産製品を）購入してしまったりして勿体なく感じる。多くの人が訪れる観光・教育施設に県産材の製品がうまく行きわたるような方法を工夫していただきたい。資料2では1基10万円位のベンチを設置しているが、例えば、間伐材で組立キット（塗装処理等必要かもしれないが）を作って、欲しい人が自分で組み立てれば数万円になるのでは。また、カーボンオフセットに繋がるので、CO2 排出企業が購入費用を負担するようなスキームができれば、企業はCO2 削減目標で、施設利用者は県産材に触れる機会増加で、事業者は費用負担減で、それぞれメリットが生まれると思う。そのような事業化により短期的取組ではなく先につながる木材活用の方法として長野県がリーダーシップを図っていても良いのでは。

- 確かに（県産材の）椅子は高価。塗装、大工さん、配送等いろいろな手が入っている。今の「キット化」はとても良いアイデアで、塗装も自分でやっても木育になる。また、北信の観光地で統一性のあるキットも面白い。例えば、屋外で使うモデルとして統一すれば行政も発注し易くなりコストも下がってくると思う。「キット化」は面白い。

- 「キット」のアイデアは是非活かせると良いし「統一感」も良いと思います。北信で見

掛けることにより、そこからまた認知され印象に残るかもしれない。(座長)

(3) 森林づくり県民税令和4年度の事業内容および目標について

- 口頭でご説明いただいたが、北信の4年度計画一覧のような資料は無い？そういったものがないと計画内容の確認や前年度との対比等が出来ない。

(事務局コメント：一覧表未整理のため整理して追加で送付させていただきたい。)

- 北信として予算がどの位なのか。(令和3年度の)予算が2千3百万円で執行額も2千3百万円ということなら良いが、予算が多くあって結果として2千3百万円ということなら、科目間流用や協議会で決定して使えるような工夫がほしい。北信で使える金額の目安があると良いと思う。

(事務局コメント：予算の規模的なものは経年的にあり、また(各事業の)予算枠があるため、他地区での不執行など県予算の余裕額と当地域での要望をうまく調整していきたい。)

- 資料3の2ページ下段で予算額を「林務部所管」と「林務部以外所管」に分けて再掲しているが、分ける必要性があるか疑問。仕組みなのか分からないが、一般の方には、建設・林務・教育の分けではなく「森林税はこのように活用されています」と示していただければよいと思う。

- 3～4年ほど委員をしており、いろいろな方の意見をお聞きしているが、これらの意見が次年度にどのように反映されているのか、ご説明いただければ嬉しい。

- フィードバックは大事だと思われるし、全てとはいかなくても、どこまで近づけられたか、どこまで検討したか等、現状では、このような振り返りは如何でしょうか。(座長)

(事務局コメント：同様な意見が出ていることも見受けられ、毎年開催する以上は次回に反映していく必要があると認識している。考えていきたい。)

- 構成員としても、意見に対して進捗や課題が見えれば、前に進んでいけるので是非お願いしたい。

(事務局コメント：昨年は書面決議等のため、やり取りが出来なかったことは反省点としたい。本日いただいたご意見についても、おっしゃる通りと思えるものや、行政の会計制度上困難なもの等あるが、場面場面に応じた事業執行の中で対応していきたい。林務部への伝達や意見へのフィードバックもしていきたい。先ほどの一覧表についても別途お届けするので、忌憚のないご意見をお願いしたい。)

- 県の会議(森林づくり県民会議)の内容も私たちはあまり知らない。地域会議の意見が県民会議でどのように審議されどうなったのか、県民会議の内容や最終決定を教えてください。

(事務局コメント：この地域会議の内容は、県民会議での議論の参考とされることとなっているので、内容・結果等について皆様にフィードバックさせていただきたい。)

(4) 長野県森林づくり指針について

- 森林環境譲与税と森林税の違いを一般の方にどう説明できるのか。譲与税はほとんど使われておらず目に見えない。7・8割を基金に積立している県の話も聞くが、譲与税は、山主を（森林）整備のために見つけてもらいたい。森林税は、県民の皆さんに身近なものとしてほしい。山の整備ばかりで出口の方が無いが、伐ったから地元で使うという仕組みのため使うのが森林税ということなら皆さん納得すると思うので、差別化をしっかりとしてほしい。

あとは、森林を増やしていくなかで、まず足りないのは木こりさん。で、県産材はもうこれ以上作れない。製材工場が無いからで、いくら（材を）出しても製材工場整備をしない限りは県産材として普及はできない。今でも、私たちは一杯。なぜなら、乾燥機が無いから。いくら挽いても乾燥機が無ければ製品として売れない。山の整備とともに製材業等産業の方の支援もしていただかないといけない。

また、木こりさんは月給制にしていかないといけない。日給では「自動車ローンが組めない」・「カードが作れない」という話も聞いた。月給固定給にするには、どうすれば良いか考えないといけない。長野県として、全国共通の戦いの中に入るのか、長野県独自の単価があって良いのか。独自の単価にするのであれば公共施設も独自の単価とするのか、考えなければいけないと思う。製材工場も10万m³ 挽く工場と5千m³の工場では戦いにならない。これを合わせるため、経費節減ばかりでは可哀そうで、長野県としての適正単価があっても良いし、建設においても全国平均の物価版単価とするのではなく県内で循環する仕組みが理想ではないかと思う。山ばかり伐って全部、県外へ出して終わるのでは、林業県にはなれないと思う。ある程度、県内で循環してこぼれたものが県外へいく仕組みのための森林税・譲与税であってほしいと思う。

(森林政策課長コメント：今の「仕組み」の部分は知事との議論の中でも正に同じ話が出ており、林務部内でも、乾燥機や伐り手不足の話も正に同様。問題意識が高い部分なので今までの延長線上ではない取組みも必要と考える。全国との知恵比べとなってきているので部を挙げて取り組んでいきたい。森林税と譲与税についてもおっしゃるとおりで、県だけでなく市町村の皆様とも同じ気持ちで取り組めるよう整理していきたい。)

- 資料1の中に「森林の多面的機能の恩恵が年間一人当たり150万円」とあるがこの恩恵が県民の方に伝わりづらいと思う。仕事で子供達を森林につれていく機会があるが子供が森に足を運ぶ機会が少ないと感じる。先生や親御さんも自然に触れていないことが感じられ、このような状況で、「自然を守る」とか「ゼロカーボンが必要」と言っても一般の方には中々理解できないと思う。子供達が森や自然に親しむことを通じ、このような問題を考えられる大人になると思うので、自然に触れ合える機会を作っていくことが大切であり、これは県だけでなく我々皆で担っていくべき課題。このようなところにも森林税を活用できないかを感じる。欧州等では、家のすぐ裏が森になっていて家族で親しんでいる光景をよく見るが日本では少なく残念。ゲームのプログラ

マーになりたい子供はいても、木こりになりたい子供はいない。イメージできないから。

こういう環境は必要になってくるし、その中から森林整備を重視する人もでてくるのでは。

(森林政策課長コメント：森林環境教育の面から、幼少期に野外での体験があると自己肯定感が高まるデータがある。第3期森林税で学校林を整備したが、今、子供が勝手に森に入って楽しむことができない世の中になっている。今後の方向性として、身近に、だれでも親しめる森があることが大事。どういうデザインが市民に親しまれるのか考えてきたい。先日、フィンランドの皆さんと交流機会があり市民と森との距離が非常に近いとの話を伺った。日本では難しい面もあるが、県としても、できることを真剣に考え取り組んでいきたい。

- 「木こり」の話があったが、実際、若い方で興味を持って就業希望する人がいても給与の面や実際の仕事とイメージとの違いがあったりして職員の人数が足りず、計画どおりに森林整備ができない状況がある。やはり、木こりのイメージを変えていかないといけないと思う。今、戦後植林され伐期を迎えた木を伐らないと、大きくなりすぎて伐採も製材も大変になり価格も下がり山主さんも「山を持っていても良いことがない」という気持ちになってしまう。本当に、伐るなら今なので、森林に興味を持ってほしいし、森林税を上手く使って県民の皆さんに木を使うことをアピールすることも大事だし、実際に使えば、木の家やおもちゃに癒されたり木の良さも分かって使用量も増えて、山主さんの収入も、木こりの給料も上がっていくのではないかと思う。

(森林政策課長コメント：林業就業者の処遇改善は本当に重要であり、なり手の問題としては、いかに森林関係人口を増やしていくかが重要であることを再認識させられた。)

- 子供達にどう教えていくかについて、小学5年の3学期に森林の大切さを教えることになっているが、6年生への進級直前で忙しくて飛ばしてしまうらしい。小学校では時間を割いて教えないので、林務課で請け負って、山の大切さ、木こりの大切さ、製材等について教えるぐらいの仕組みを作れば、長野県すごいね…となるのでは。そこで興味を持ってもらってから NPO 等と一緒に山に入ることに繋がっていくと嬉しい。小学校、高校での授業もさせてもらっているが、SDGs の話は企業も高校生も敏感。17項目のうち（森林・林業が）十何項目に関わっていることを教えていく義務もあると思うし、林務でもこういった教育をやってもらおうと嬉しい。それについては、いくらでもお手伝いしたいし、是非、一緒にやればありがたいと思う。

(森林政策課長コメント：SDGs の教育について、子供の吸収力は大人に比べて凄く 17 のターゲット全て言えるくらい。子供達の吸収力を考えると、大人がどれだけ本気になるか…だと思っている。先程から、いろいろな垣根や縦割り等の課題についてお聞きしており我々もそこを打破できないもどかしさもあるが、何か突破口を作って広げていくよう頑張りたいので、その節は御協力いただきたい。

- ありがとうございました。では、全体を通して何かお気付きの点やご要望など自由な

観点からご発言ありましたらお願いします。(座長)

- よろしいですか。それでは、各構成員から貴重なご意見ありがとうございました。ご意見ご提案など十分お出しいただいたので、これで意見交換を終了します。(座長)